



「ゆきはらし」が吹くころ、北国に春が訪れる。

帰り着いたのは、一年の半分が雪で覆われる北の大地、旭川。

ひとしきり雪が降れば小さな日が顔を出し風が吹く。

それを「雪晴風（ゆきはらし）」と言う。

斎藤さんの俳句は乾いた雪を舞い上がらせる雪晴風のごとく

眼前の景の向こうに息づく生命までを見通して揺るがない。

——仲 寒蟬（俳人）

句集 雪晴風 ゆきはらし

5月15日発売！

斎藤信義 著



北海道の長く厳しい冬に耐えた大地に、
春、雪どけとともに一斉に花が開く。

色鮮やかに移りゆく北国の四季、
その一瞬を切り取った秀作！

前作『氷塵』（鮫島賞受賞）に続く第4句集。

明け方の天女が原の淑気かな
クリオネといふ流水の雫かな
空のいろ水のいろ蝦夷延胡策
肝に沁むほどの眩しさ雪晴風

◆著者プロフィール◆

1936(昭和11)年、北海道増毛町生まれ。「菜殻火」の野見山朱鳥、「蛙」の上田五千石に師事し、現在「月の匣」同人。句集に『神色』『天景』『氷塵』がある。生命諷詠を重んじ、北方俳句を特徴とする。

定価：本体 2500 円＋税
四六判ソフトカバー 176 頁

発行：株式会社朔出版 〒173-0021 東京都板橋区弥生町49-12-501

ご注文はJRCへ FAX: 03-3294-2177

●JRC より全ての取次への出荷が可能です。●返品は長期にお受けします。（了解者 JRC 後藤）

ご注文申込書	貴店名・帳合	注文数	発行 朔出版 電話・FAX 03-5926-4386
		冊	句集 雪晴風 斎藤信義 著 四六判 /ソフトカバー/176頁 /定価: 本体2500円＋税
			ISBN978-4-908978-13-5 C0092